

2025年度 町田市立つくし野小学校 学校経営計画

校長 山中 朗

1 はじめに（学校の使命とは）

私の考える学校の使命とは、6年間の学校生活を通して、子供たちに「共生」する力と「自立」する力を育てることにあると捉えています。そして、身に付けた力を土台にして子供たち一人一人に自信や勇気もたせ、夢をもって強く生きてほしいと願っています。

「共生」する力とは、自他を大切にし、認め合い、支え合う力です。そして「自立」する力とは、自ら考え、判断し、行動する力です。この2つの力こそ、子供たちが複雑な現代社会を強く、前向きに生きていくために必要な力であると考えます。

そこで、私は学校の使命を「すべての子供に「共生」「自立」する力を育む」と捉え、町田市教育プラン及び町田市教育委員会教育目標・同基本方針を踏まえ、この使命（ミッション）を実現できる学校づくりに全力を尽します。

町田市立つくし野小学校 教育目標

○よく考える子 ○元気な子 ○助け合う子

2 目指す学校像・子供像

（1）目指す学校像

① 自他を大切にし、互いに認め合える子供が育つ学校（みんなで育つ 共生）

私は、自他を大切にし、互いに認め合える子供を育てるために、子供一人一人が安心して通える学校をつくります。

そのためには、なによりも学校にかかわるすべての人たちが相手の立場を尊重することが大切になります。その上で「思いやり」「正義感」「協調」「共感」というような心情・姿勢を育てていきます。また、「かかわり合う」「認め合う」「折り合う」「支え合う」「助け合う」「協力し合う」といった好ましい「合う」という習慣・能力を身に付けさせていきます。

② 自ら考え、判断し、行動できる子供が育つ学校（みんなが伸びる 自立）

私は、本校の教育活動の中で自ら考え、判断し、行動できる子供を育てるために、授業の充実を図るとともに学校生活を安定させます。授業改善に継続して取り組むことで、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容を定着させます。その上で、思考力や判断力、表現力など自分の意思決定や自己主張をするための土台となる力を育てます。また、生活面では「あいさつをする」「ルールを守る」などの生活習慣を徹底的に身に付けさせ、正しい自己決定ができる力を育てます。

(2) 目指す子供像

「ふるさと つくし野を大切にすること」

教育活動を通して自他を大切にし、互いに認め合う「共生」する力と自ら考え、判断し、行動する「自立」する力が子供たちの中に育っていくのに合わせて、友達や家庭、教職員、地域の方々など学校を支えている方々やものに対する信頼や愛が生まれてきます。また、自己有用感が高まり、自分に対する自信が生まれてきます。さらに、生活の場であるつくし野小学校への思いも深まってきます。

そこで、子供にとって大切なものが生まれるつくし野小学校を「ふるさと」と捉え、「ふるさと」つくし野を大切にすることの子供を教職員、保護者、地域の方々と手を携えながら育てていきます。

3 学校経営目標と方策（中期的目標と方策）

(1) 子供が安心して通える学校をつくる。

①人権教育・道徳教育・生命尊重教育

- ・人間尊重を基盤とし、人権教育の推進を図る。
- ・道徳教育と人権教育を推進し、差別や偏見をもつことを許さない姿勢を育てる。
- ・生命尊重にかかわる指導を推進し、命あるものを大切にする心を育てる。

②いじめ、不登校対策

- ・「つくし野小学校いじめ防止基本方針」を基に、いじめ防止校内委員会の活動を継続・発展させ、「いじめ見逃しゼロ」を実現する。また、「不登校ゼロ」を目指す。
- ・スクールカウンセラーや巡回心理士の助言を仰いだり、ケース会議を開催したりするなど、即座に対応できる校内体制を構築する。
- ・児童の悩みや不安を受け止める教育相談体制を整える。

③特別支援教育

- ・校内委員会で個別指導計画並びに個別の教育支援計画を活用し、組織としての情報共有を図る。
- ・スクールカウンセラーや特別教育支援員等を活用し、児童一人一人に即した丁寧な指導や支援を実現する。
- ・特別支援教室において巡回指導教員と学級担任が協働することにより、利用する児童が抱える困難さを改善し、学習能力や集団適応能力の伸長を図る。

④安全指導

- ・通学路を守っての登下校の励行、正しい歩行の仕方などを日常的に指導し、児童の交通安全に対する意識と実践力を高める。
- ・不審者への対応として、危機管理マニュアルを意識した教職員の共通理解を図る。
- ・定期的に校舎内の安全点検と毎月の避難訓練の充実を図り一層の防災教育に努める。

⑤学校生活

- ・「つくし野スタンダード」を毎月の生活指導の中に指導項目として位置づけ、学習や生活のルールを明確に示し、周知徹底させる。学校のルールを守らせて、生活させる。
- ・異学年交流やつくし野デイサービスとの交流及び地域の方々との触れ合う活動を通して「相手の気持ちを考えて行動する」気持ちを高める。
- ・よさや個性を認め・褒めることを通して自己有用感と自尊感情を育てる。道徳教育を軸に置きながら、キャリア教育や体験的活動、特別活動等に絡め、教科横断的に、年間を通じて自己有用感や自尊感情、認め合い協働していく力を高める授業・取組を実践する。
- ・気持ちのよいあいさつや正しい言葉遣いをするを年間通して指導し、言語環境の整備・充実を図る。
- ・校内の集団生活で「あいさつ、返事、職員室入室の仕方、言葉遣い」等について規範話型を示し、全校で一斉指導することで静かで落ち着いた雰囲気を作り出す。

(2) 授業を充実させる。

①授業づくり

- ・学びの基本を「学ぶ意欲」と捉え、「できた」「わかった」という学ぶ喜びを感じる指導を継続する。
- ・自分で考え、これまでの知識や友達の考えを参考に判断し、自分の考えを表現する学習を展開する。
- ・授業をデザインする力を高める。(導入、振り返り、板書など)
- ・評価規準の活用を進めると共に、指導計画や児童の実態に合った内容に改善する。
- ・基礎的・基本的事項についての指導の工夫と改善を図る。
- ・年間指導計画に基づいた計画的な授業を実践する。
- ・体験活動や協同的活動の中に言語活動を組み込み、思考・判断・表現力を高める。
- ・全国学力状況調査並びに東京都学力向上調査などの学力調査の結果を踏まえて、授業改善推進プランを作成・実践し、授業改善につなげる。
- ・学習指導上、新たに取り組むことやこれからも重視する内容について研修などを通して理解を深める。
- ・複数の教科・領域の連携を図りながら、授業をつくる。

②学習環境

- ・「返事をする」「めあてをもつ」「振り返りをする」「根拠をもつ」など授業での学習習慣を育成する。
- ・各家庭との連携を密にすることで、家庭学習の充実を図る。
- ・ICT 機器の活用を継続・発展させ、授業の充実を図る。特にキュビナの活用に重点を置き、学校内外で常に学び続ける環境を作る。

③ 校内研究

- ・「みんなで育つ みんなが伸びる」つくし野の子供の育成を中心においた研究を進める。

※今年度の研究については、体育科について研究と実践を進めていく。体育科における教科指導力の向上を図りながら、児童の「表現する力」「学びに向かう力」を高めていく。

④教科・領域の指導

- ・各教科・総合的な学習において、課題設定の仕方・探究活動の仕方・表現の仕方等について具体的に指導して、学び方の習得を図る。
- ・年間指導計画に沿った指導を行い、年間単元配当表を基に反省・評価・改善を行い、次年度の計画を立案する。

⑤道徳教育

- ・「特別の教科 道徳」の全体計画別葉を基に、全教育活動を通して人間尊重の精神を基調とした心の教育を推進し、自他の生命の尊重と自分と社会とのかかわりを大切にする思いやりの心をもった児童の育成を図る。
- ・道徳授業地区公開講座では、保護者・地域の道徳教育への関心を高め、児童理解の大切さや思いやり、規範意識の向上などの課題についての認識が深まるようにする。

⑥特別活動

- ・学級会を校内研究の中心に据え、認め合い、学び合う集団の形成を通して児童個々の表現力、共感力、合意形成力等を醸成させる。
- ・児童の自主性を大切にしながら、運動会や秋の音楽会、つくしんぼ祭り、宿泊行事などの企画・実践を行い、集団で活動する楽しさや望ましい人間関係の育成を図る。
- ・学年の発達に合わせて学校行事を計画的に実施することで、児童に学校生活への秩序と変化、参加した喜びを実感できるようにし、学校の一員としての自覚を育てる。
- ・係や当番活動などを通して、児童が役割や規律の大切さを意識できるようにする。

⑦体力向上・食育

- ・体力を向上させる機会を積極的に設ける。
- ・「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動に取り組み、体力の向上と運動の日常化を図る。
- ・日常的な体育的活動を充実させるため体力テストの結果を有効に活用する。
- ・外遊びを奨励する。教師もできる限り児童と一緒に活動する。また、校内マラソンや短縄、長縄は目標を設定して、児童自らがめあてをもって取り組むようにする。
- ・学校給食等を通して、食育を推進し、望ましい食習慣への態度を身に付けることができるようにする。

(3) 教育活動の質を向上させる。(カリキュラム・マネジメントの確立 他)

①学校・学年経営・組織体制

- ・カリキュラム・マネジメントを推進し、教育活動と経営活動を活性化させる。「いいと思ったら、すぐ改善」を推進する。
- ・教育活動の効果を常に検証して改善する。(PDCAサイクル)
- ・常に協力・協働できる教職員組織をつくるために、経営支援会議を毎月開催し、具体的な取り組みを進める。
- ・地域と連携し、よりよい学校教育を目指す。
- ・学年共同で週案を立てることにより学年OJTを進め、教材研究と児童理解を通して全教員の学習指導力を高める。
- ・校務分掌の役割は責任をもって計画・実施する。各分掌間では定期的に会議をもち、先輩教員が指導助言して全教員の学校運営力を高める。
- ・服務研修をはじめとしたあらゆる機会を捉え教育公務員としての意識を高め、全教職員で服務事故防止に努める。

②開かれた学校づくり

- ・学校運営協議会を定期的で開催し協議を重ねることで、地域に開かれた学校運営を進める。協議会において、学校の教育活動の理解を得るために資料を充実すると共に、適宜、教職員との交流の場を設け、相互の理解と協力関係を進めていく。
- ・学校防災活動事業を推進し、災害時の避難所開設などの必要な対応ができるようにする。
- ・学校だよりやホームページなどを活用して、随時教育活動を公開する。
- ・運動会などの学校行事や土曜公開、平日の学校公開などを実施して、保護者や地域の方に直接教育活動を参観していただく場を設定し、教育活動への理解・啓発を図る場とする。
- ・学校公開時には、保護者アンケートを実施するとともに、学校評価の成果指標、取組指標に基づく成果を数値で明らかにした上で、学校関係者評価を行う。
- ・各学年において、地域の人材・施設・自然・文化を活用した教育活動を展開して地域のよさを知ると共に地域を大切にする態度を高める。

4 今年度の重点目標

中期的目標1 子供が安心して通える学校をつくる。

②いじめ、不登校対策

- ・「つくし野小学校いじめ防止基本方針」を基に、いじめ防止校内委員会の活動を充実させ、「いじめ見逃しゼロ」を実現する。また、「不登校ゼロ」を目指す。
- ・スクールカウンセラーや巡回心理士の助言を仰いだり、ケース会議を開催したりするなど、即座に対応できる校内体制を構築する。
- ・児童の悩みや不安を受け止める教育相談体制を整える。

⑤学校生活

- ・「つくし野スタンダード(生活編)」を毎月の生活指導の中に指導項目として位置づけ、学習や生活のルールを明確に示し、周知徹底させる。学校のルールを守らせて、生活させる。

中期的目標 2 授業を充実させる。

①授業づくり

- ・学びの基本を「学ぶ意欲」と捉え、「できた」「わかった」という学ぶ喜びを感じる指導を継続する。
- ・授業をデザインする力を高める。(導入、振り返り、板書など)

②学習環境

- ・「はい」「めあてと振り返り」「根拠をもつ」など授業での学習習慣を育成する。

中期的目標 3 教育活動の質を向上させる。(カリキュラム・マネジメントの確立他)

- ・カリキュラム・マネジメントを推進し、教育活動と経営活動を活性化させる。「いいと思ったら、すぐ改善」を推進する。